

③ 大学の「地（知）の拠点整備事業」と連携した「まちラボ」の取組【稚内中央商店街振興組合】

稚内中央商店街振興組合	まちなかメディアラボ（まちラボ）
<p>「稚内中央商店街振興組合」が位置している JR 稚内駅周辺の中央地区は、稚内市街地発祥の地であり、宗谷経済・文化の拠点として発展した地区である。</p> <p>振興組合では、中心市街地の活性化に向けた各種取組を実施しているが、その取組の一つとして 3 年前から「健康商店街」を掲げ、商店街の空き店舗をリノベーションしたスペースを使ってヨガやウォーキング、食べ物講座などを行う事業に取り組んでいる。</p> <p>○ 所在地：稚内市中央 3 丁目 4-9 ペットショップカナリヤ 内</p> <p>○ TEL：0162-23-6852</p> <p>○ FAX：0162-23-5002</p>	<p>「稚内北星学園大学」は、中心市街地活性化のため、稚内の中央アーケード街の空き店舗を活用して、大学サテライト「まちなかメディアラボ」を設置。</p> <p>「メディア表現指導員」が常駐し、市民からの「きれいなポスターを作りたい」「撮ったビデオを編集したい」などの専門的な知識を必要とするニーズに対応。また、教員や学生による作品の展示・上映などの情報発信の拠点でもあり、市民も自由に利用できるフリースペースとして解放している。</p> <p>○ 所在地：稚内市中央 3 丁目 9-1 2</p> <p>○ TEL：0162-22-6565</p> <p>○ FAX：0162-73-0973</p> <p>○ E-mail：machilabo@wakhok.ac.jp</p>

「地（知）の拠点整備事業」との連携のポイント

「稚内中央商店街振興組合」は、これまで中心市街地の活性化に向けた各種取組を実施してきましたが、平成 26 年度からは、「稚内北星学園大学」が取り組む「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」の事業と連携し、商店街が大学への空き店舗の提供や、学生が商店街でやりたいことのコンペの企画にも協力するなど、学生たちの新鮮な発想を取り入れ、商店街の活性化へ積極的に取り組む連携事例です。

地域の状況

JR 稚内駅周辺の中央地区は、稚内市街地発祥の地であり、市民から「マチ」として親しみを呼ばれ、宗谷経済・文化の拠点として発展した地域であり、その中に稚内中央商店街は位置しています。

中央地区でも、人口減少や景気の低迷、少子高齢化や過疎化などからコンパクトな市街地形成が望まれており、中心市街地の商店街などでも、生活を支える商業機能、コミュニティ機能等の再構築が重要となっています。

「稚内北星学園大学」の取組

「稚内北星学園大学」は、「最北端は最先端」のスローガンの下で、地域の行政・経済界・各種団体・市民との地道な関係構築を重ね、稚内・宗谷地域との日常的な連携を深めてきました。

そして、平成 26 年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に応募し、全国 237 件の応募の中、道内で唯一採択されました。

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」は、

「地域の教育力向上」「観光まちづくり」「中心市街地活性化」の三つの課題を設定しています。

地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備	
三つの課題	<p>① 「地域の教育力向上」 小・中・高の生徒に対する地域の教育力を高める活動に大学が積極的に関わり、放課後学習への支援、授業における ICT 利用の支援、情報モラル教育などを履修科目と結び付けて展開する。</p> <p>② 「観光まちづくり」 インターネットを活用した地域の観光資源の発掘及び観光情報の発信、また観光ガイドアプリの制作やプロジェクションマッピングなど地域との共同事業に学生が主体的に参加していける仕組みをつくる。</p> <p>③ 「中心市街地活性化」 空き店舗を利用した「まちなかメディアラボ」を設置・運営し、学生のボランティアやイベント参加などの地域活動や交流・学習教育・情報発信の拠点として整備する。</p>

「稚内北星学園大学」は、課題の一つである中心市街地の活性化を支援するため、学内に「まちなか振興支援室」を設置するとともに、大学サテライト「まちなかメディアラボ」（まちラボ）を中央商店街の空き店舗に設けました。

「まちなか振興支援室」は、学内の「地域教育支援室」、「地域観光支援室」と連携するとともに、「まちなか振興支援室」に「まちなかメディアラボ運営会議」を置き、三つの視点で「まちラボ」の運営を行っています。

- ① 中心市街地における学生たちの活動拠点
- ② 中心市街地に関する情報受信、蓄積、発信の基地
- ③ 市民が集い、交流し、学びあう場

稚内北星学園大学「まちなか振興支援室」

稚内中央商店街に設置された稚内北星学園大学サテライト「まちなかメディアラボ」を拠点に、中心市街地の再生・活性化を目的に、商店街・地域の情報発信や学生・地域の“まちづくり”活動を支援。また、研究会やワークショップを開催し、中心市街地の再生・活性化について学習する場を設置。

「まちラボ」は、稚内中央商店街主催の「学べる！健康商店街」や、宗谷管内 10 市町村の情報発信プロジェクト「SOYA PARTY」と連携し、平成 26 年 12 月にプレオープン・イベントを開催、平成 27 年 4 月にグランドオープンしました。

「まちラボ」には、学生の“まちなか”活動を支援するとともに、市民のメディア表現相談（画像・動画の加工、編集、チラシ・ポスターの作成等）に対応する「メディア表現指導員」が常駐しています。

また、「まちラボ」では、パソコン講座や無料塾、中国語講座や絵本の読み聞かせなど、毎月様々なイベントを行っています。

「稚内中央商店街振興組合」の取組

「稚内北星学園大学」が「地（知）の拠点整備事業」として、教育・研究・社会貢献を柱とする活動を展開しており、その社会貢献の一環として「サテライト施設」を活用した中心市街地活性化の活動を企画していたことから、「稚内中央商店街振興組合」では、「まちラボ」の拠点として商店街の空き店舗を提供しました。

「まちラボ」では、学生たちの写真や映像等の展示をメインに、商店街の魅力を発信するための動画づくりを行っており、学生が商店街の店舗の

日常的な様子を撮影した映像が「YouTube」などのソーシャルメディアでも公開されています。

また、「まちラボ」を拠点として、商店街活性化に「学生として何ができるのか」という視点から、学生からの企画コンペの取組も行っています。

コンペの結果は、商店街にコーヒーショップが多いことから、「わからないコーヒーフェスティバル」が採択され、各店舗で使える 3 杯分のコーヒーチケットの販売と「まちラボ」での「コーヒーセミナー」の開催などに発展しました。

「稚内中央商店街振興組合」は現在 23 組合員で、商店街でも高齢化が進み人手も足りないことから、商店街が取り組むことや内容にも制約がありました。

商店街としては、大学への空き店舗の提供や、学生が商店街でやりたいことのコンペの企画にも協力し、学生たちの新鮮な発想を商店街にも取り入れ、積極的な連携を推進しています。

今後の展開

稚内中央商店街では、地域経済の活性化に向け、起業家の「たまご」をつくるため、空き店舗を活用したい人には安く借りられ、リノベーションできる仕組みも必要となっています。

「まちづくり」は人との繋がりが大切なことから、将来、学生たちが稚内で起業できるよう、起業家を支援する仕組みづくりを行うこととしています。

今後は、「稚内北星学園大学」との連携に加え、地元の信金や JC、観光協会などとの連携にも力を入れ、商店街やまちの活性化に取り組んでいくこととしています。